

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-11
ENVビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則

分散会からの報告

第一分散会

分会レクや交流会など集まる場を設定し加入に繋いでいる。リストアップをして目標を設定して取り組んでいるが加入に至っていない。



職場の若手社員は、

色々と会社施策に追われながら、日々の業務をこなしている。大変悩みも多く、その悩み解消へ国労組合員が関わりを持つことが大切です。

先ずは、次の一歩を出す為に分会・班が議論し全員が行動できる体制を構築すること。結果を恐れず進むことが重要です。

第二分散会

この間、加入獲得運動を節々で取り組んできました。交流会など繋がりを探り、いざ加入へととなると他労組員は嫌がる傾向が強い。

新採獲得行動で、自分の職場以外の所で新採行動をおこなっても

確信になりません。やはり、同じ職場で行動することが大切です。会社側の動きも巧妙になって来ています。

例年開催されている職場活動家交流会は、役員活動家だけではだめで、もう一人を育てる日常活動が必要です。

第三分散会

何でも議論できる場を作りながら、そして日常活動から組織加入へ繋げようと討論を行



いしました。普段の付き合いです、他

労組組合員の考えや悩みを聞きだし加入へと繋げたい。未加入者も居る実態を見たときに、組合不要論も考えられます。国労組合員は、職場で信頼され存在感を示しながら、加入用紙も渡す行動へと発展させましょう。

第四分散会

昨日、組織部から問題提起がされ、6名の参加で討論を行いました。組織の減少をなんとかして食い止め、今後の組織拡大へどう活かして行くのか。新採対策を始め、通年闘争が最大の武器となっ

います。今日、委託職場が拡大されている中で、MTS会社プロパー社員との繋がりが重要です。JR会社とは違った労働条件で同じ仕事(駅業務)を行っています。矛盾点を話し合いから拡大へ。支部レクへ誘っています。

第五分散会

分会・班からの行動で加入へと繋げる討論をしました。他労組組

員は、年代別の結束が大変強く、加入させるのに苦労しています。国労の方は、良いおじさんの存在だが、繋がり

を切るわけには行きません。新採行動で変化のある行動をしてはどうか。他労組の行動を参考にし、もっとがめつく行動することも必要です。

目標設定の視野を広く持つて拡大へと繋げた。労働講座に若者を誘う予定です。

第六分散会

土浦地区分会は、具体的に行動を展開する為に対象者をリストアップして取り組んでいます。拡大期間は2〜3

年が最大の山場と設定し勝負をかけています。一人でも多くの方へ声をかける必要があります。



この事に確信を持ち続けて行く事が重要です。職場で気軽に話せる場を作り、他労組の方と対話を目的意識的に行うべきです。

第七分散会

人間関係について討論しました。職場は色々な業務や課題があり、なかなか関わりが出来

ないが、別な面から繋がりを持つよ

うにしている。前の職場からの繋がりを大切にしながらも続けている。職場の中心に国労がいることを他労組は見ている。趣味やサークルなどを通じ、関わりを継続しています。常に他労組を意識することを忘れない。



持つよ

第12回職場活動家交流会は2日間の日程で開催されました。全体で42名が参加し、本部指令に基づく組織拡大について活発な討論が行われました。久保田重明組織部長の問題提起を受け、7つの分散会で意見交換を図りました。どの分散会も共通しているのは、取り組みを継続し運動を絶やさないことを結論付けています。



全ての討論が終了し、小澤一雅東京地本組織部長から感想を頂きました。二日間の会議を通じ、とても前向きな討論だったと思います。以前は「加入させてどうする」「受験することはどうなのか」など様々な意見がありました。高崎地本で18年間経過の末、国労の姿を見て加入しました。機関運動を定着させ、分会が心のより所になる場所へとする。目標達成に向け反省と行動を展開すること。国労へお出でよの言葉をかけて行きましょう。

赤沼書記長のまとめ

2012年本部指令1号が発せられ、組織の10%目標が課せられました。昨年2名の拡大があり、目標達成に向け全機関で取り組んでいます。地方本部は節々で機関会議を集中的に開催して来ました。国労のDNAは、思いやりや仲間を大切にすることを通じ、繋がりをもち続けることです。更に広げ組織拡大へと発展させる必要があります。パートナー会社への拡大も重視して行きます。